東國大平記巻之一

天正十年壬午

一政宗公御誕生の年十六の夏方田村大膳大夫清顕之の息女の年十三

一或曰天正七年十月田村大膳大夫清顕公の息女政宗公と御縁組被成候天正十年十月廿八日御祝儀御輿にて田村の一家向彼内迄

一二月十一日輝宗公政宗公米沢の城馬四月十六日相馬長門守義胤と合戦の先陣白石若狭宗直伊達藤五郎成実同五月十六日長門守隠代伊奈十郎大隅年人者木肥前右三人伊

建義派重宗小梁川泥蟠麿盛討死

一同五月十八日伊具郡丸森城ニ合戦ニ成実相馬主相馬一味大河内弥兵衛ト合小十郎宗隆討死ス麿宗ハ政宗ハ西ハ金山ヘ出馬

一六月三日伊具郡金山ヘ合戦ニ先ヲ成実上野政宗ニ成実二陣ニ成実ハ信長ハ自害シ給ヒシヲ聞ヘ合戦ニ成実

一天正十二年四月十三日金山城相馬一味主小野寺義綱ハ味方一軍秘密ニ成実ハ義綱ハ味方ニ相図ニ成実ハ義綱ハ行方山四郎家ニ二宗孫五郎ハ行方七種ハ倒ス

成実ハ政宗ハ出馬ス

ヲ成実ハ天正十年ハ十一月ハ政宗ハ西ハ論初出馬ス成実ハ
ハ成実ヲ召出ハ到ヲ目ヲ勇ヲ仕ル成実ハ
八月女ヲ年元一ニ泥蟠ヲ一門ハ伊達兵部家ニ之藤五郎
成実ハ五隅兵庫元宗同英淀重宗ヲ表上野政宗同左近宗
俊伊達陸奥宗清国分長九郎盛重ハ相馬ハ小梁川泥蟠
麿盛同中務宗宗白石大和義直同若狭宗直宗相馬ヲ女不
休同次郎定重大條尾張宗綱同兵庫高橋泉田豊後重光
同弾正次重久田手武兵義茂石田休雪長成同左馬丞宗長石
田左衛門宗頼須田伯耆宗信富塚近江信綱遠藤山城基信
屋代勘ヶ由兵庫宗頼横田右馬弘綱同玄蕃弘重同高内宗

信濃木曽義宗久伊東肥前信房一家一族八郎貞越中栄田
兵庫義田右之衆丹但馬佐藤兵庫同吉文村田刑部同一郎新
田左衛門石川右衛門沼部越中大所之河内小太郎桜上中勢飯坂
右近西大條右之衆上那出右衛門遠藤大和貞田長次郎西大立目氏
部下飯沢主計高内図書助近習侍六茂左衛門月石見守座
主伯左金休之同小十郎小盛田智右衛門右之衆中村刑部中條伊
勢山家伊予長谷英作永井月溢之田出羽小山田弾正佐
木日向内馬場右衛門飯田九郎三郎内記伊中條吉左衛門右衛門
牧左京亮福田左番小田部庵摩五十嵐芦舟内信濃武山出雲
大久保主殿支倉平三郎佐藤左衛門吉田内匠津田豊前内氏

近江宮川一色内舟渡七宮伯耆湯村右近頼武部湯内民部佐
藤隼人内右之衆大和田出雲成田右近本宮伊勢湯山雲九郎馬
場右近清津丹波金森隼人佐大宮年人庵又大蔵吉田弾後松
木伊賀上野左衛門奈良十郎堀城伊賀降谷九郎宮内近藤伊
内右衛門前石田五位藤武部阿部九内河口外記桜木孫兵衛
を既に合生勢四万三千七百六十余騎と書記に載上意輝宗公
御宮に八幡の軍奉行八左衛門兵庫元宗右衛門上野政宗先陣
八左衛門小十郎二陣八伊達藤九郎三陣八白石若狭後陣八小梁川
泥蟹来栖兵部と御分れ

一忠不忠記曰今年正月七日五ツ九八四方の雲ハ霞に心の

永も為〳〵解事雪消て牛馬の往来知られそれより伊達政宗
陣をとゝて輝宗公父子一万五千余騎の御供をして天正十年三月
十日に羽州米沢長井庄を御発駕なされ板橋峠を御越なされ
残雪深くれ八夜を苦労なされ八橋軍勢に酒をふるまいて生き
と温めさせられる時に八十二歳に信夫郡大森城御発駕なされ
遠刈田第四五陣名元宝陣深岩松山の大名小名侍我者ども
出仕を致せる程に前に馬の立列もちゝ勇こゝろ
宗公日参三月廿九日に先祖より崇敬し玉ふ果門の八幡宮へ
御社参なされる御行年未十六歳にて御ひるれ共大将の
格りに八三千騎の御供をして斉藤天を輝し御行列西蔵果

川へ御名乗なる時に政宗公伊達に御定に八神を参ること
明法坊に分を法ゝ〳〵御月四月朔日に御宮を乗御廣前
を薙藤原藤之祢神馬七匹明神恵和尚帛獲ら同寄知
金銀種々の贖物限りなく乃ち果門博王伊達政宗
清御祓奉て上方に住者を元禄御宮の移ているゝ
又川股陣を桜田右京弘国同玄蕃弘重ゝ御勝
をされ板北大隅谷田貝四郎新沼保原秋山の諸侍三人も
御供被仰付御上洛の時に長坂ゝ陣ゝ三方の道筋
を伊達政宗御金百西蔵を差授宗直に秋廣の小振袖
同四ツに大者御供ら乗ら秋の立山分迄と云者在不の

御勝手よろしく政宗公元来猛将へ被仰付ケ○喜多院ヨリ是ヲ見
捨て将監ハ先手ニ置れ候を以て致心得候ところハ喜山外
純色勤然として引退き森々ても不顧艱難をて肖以ろ
然るを政宗公御取て義色ハ至宝せり候然悟る所を不
にあらぬ者を起将廿五人より気勢せんと致し候其不能
ならるへきことと云々

一四月十二日伊具郡小斎の城主小斎大膳と云侍相馬義胤卿下ニ之
ありし長門守義胤の善道の振舞を見て猶宗公御父子伊達へ
御志従の事不叶のよし未練の事ありて候文の大事之ハ訟条伊達度
五郎盛実ハ忠勤を立てたるよし云へとも遁れる気色往昔大司馬

周殷項王の無道をなんて漢の高祖へ来ルしも影を見て馳参りる此故
に猶宗公御父子不斜思召小斎在城をよく安堵ありし御褒美
所の御感状を下し給ひ又世代ニハ相馬長門への御備ハ小手口より攻寄
んと又金山口よりせんとて宇多郡を從ひ候得ハ小斎在城へ御任すへ相
馬長門守義胤ハ義理の小斎乃ちて東方を太事に任て惣武士をハ金津新
地方に籠置て小手口合戦とこ仰出さるし定て金津新地の兵
其小手口へ被差向られし其時金津表へ従軍勢をとも押寄せ
不意を討せ候事可然て金津表城中薬内しれハ其後可て
此機策其上御的の義ハ様荒く長きにあり共兵先日敷不城へ御
見積リ兼ておいて彼方近城へ御働の御様子を懸る遊さし上

なれる輝宗公の御舎弟なれは甚保国なきにしも非ず何ぞ元宗
政宗何とぞ思慮せられ候へと一言もなしに申人あり給ふも
存慮ありけるか此一理軍法に叶ひ大軍とは八萬余を付属
せられ四万余騎なり是より先之御出二本松義継塩松大内備前定綱
八町油断なく押への勢をもち抱へて是より上八十目城主伊達兵部実
元と中條右兵衛長谷川兵庫来新沢新田兵部新田式部金上
隠岐山名志摩大久保玄蕃宮内周防猪苗代主殿高玄蕃波下殿
坂本右馬丞平尾信濃遠藤出羽伊東肥前を始め二千五百騎塩松
（八町股の城主桜田右兵衛弘國五人蘆田右兵衛遠藤大和屋代越
中條木田内大和留守出雲佐藤和泉大友讃岐堀江紀伊元新地

高橋李出雲中條出羽守古田内匠成田右馬允後藤孫兵衛福田
玄蕃大塚主殿山岸孫兵衛小石継掃部宮崎玄蕃武士三千
五百余騎と申ところ斯て四月廿二日相馬中村陣を御出立刈田宮
名元也陣深谷松山伊達信夫長井の大名小名（田）文を廻らされ八
四月十六日迄に信夫の大森へ馳集り惣軍勢催也し武士大将夫々
に至る迄小手口相馬顔石目木の城へ寄られ上野政宗大将として五
千余騎川俣し近辺安積の如く金津新地の総軍勢石目木
城へ押かけられ寄手余騎の軍勢にて伊達政宗公御自身打立て大森
御出陣七五三に伊具郡角田城に御着ありしが先陣白石若狭
二陣伊達藤五郎母衣旗幕に色染めを定し家来器量の者を

諏馬おせ事ゝ敗てゝ元ゝ輝宗公ゝ文ゝ五陸元宗伊達成
実島宗直佐竹京藤ゝに伊ゝ佐ゝ八世成の合戦ゝ於て八佐軍
勢の機を能ゝ乎手戦後ゝ軍ゝ出し元ゝ和よゝて四月
廿六ゝに出馬候し白金津ゝ陣ゝ立押寄ゝに彼陣に八長門守
盛氏白朝佐奈十三郎大塚年人青木肥前ゝ云武士大将ゝ
ゝて寄ゝ来ゝ我ゝ伊達長井の軍勢共稲麻竹葦のごゝく元
国数百挺の弓鉄砲ゝ打放ゝて勇ゝ敵ゝ彼矢呼の声伊
達方彼軍勢勇ゝ声八天ゝ響き地ゝ響ゝ千雷のごし陣兵
共正気ゝ奪ゝ度ゝ失ゝ敵ゝ去ゝ共彼三人の老兵四万八百巳ゝ
に翌日ゝ陣中の事ゝ厳しゝ守ゝ居ゝに伊達勢に会ゝ敵八百

余一ゝ討ゝ取ゝ八五里七里ゝ追ゝ一ゝ攻破ゝ八勝日の中ゝ項王威勢
に会ゝ敗ゝ八敗ゝ八勝ゝ中ゝ知ゝ恐ゝ強ゝ佐竹の勢ゝ追ゝ陣中
兵議一変ゝて相馬小高ゝ逃ゝ入ゝ義胤ゝ百目木ゝ八毛利
勢発ゝて金津ゝ八伊達勢ゝ責ゝ来ゝ両陣ゝ防戦軍士ゝ疲
疲ゝ疲ゝ責破八金津表ゝ百目木の陣ゝ加勢ゝて来ゝ
ゝ二本松信松の勢ゝ合ゝ相馬ゝ則二本松義継軍兵二千
軍勢大内彼ゝ新兵五百人相馬勢ゝ加ゝ金津山ゝ内ゝ進出伊
達軍勢ゝ見ゝ合ゝて八好敵ゝ軍ゝ為ゝ危威能力ゝ能ゝ
二本松軍勢ゝ対出火花ゝ散ゝ戦ゝ為ゝ先陣ゝ進ゝ
敵の首小斎ゝ高ゝ討ゝ取ゝ二本松勢ゝ多ゝ討ゝ一二百騎

遠方ヨリ大坂ヘ籠城ノ薩摩中成寄若狭宗直来ル
伊勢国住伊東肥前守殿軍勢西ヘ振ル突然ヲ以テ
遠江武士四千五十騎討入テ手ニ捕手ヲ引ル薩摩ヲ
田大蔵相国左衛門佐田中三郎兵衛山崎治部
ヲ付ル
ヲ日ハ西国ニ傾ク事ハ無疑ヲ以テ
天正十一年　癸未
一九月廿八日輝宗公御隠居政宗公（四代目）ヲ輝宗公ハ米沢
ヲ長井内小松城（四移ル）大内伯耆定綱米沢（年上遠藤山
城相南ニテ四拾五歳ヲ以テ米沢屋敷ヲ家中ヲ
輝宗公米沢ヲ長井内小松城（四移ル）

一十二月三日伊達兵部宗元隠居ヲ
天正十二年　甲申
一正月元日年始ノ祝儀着座
伊達藤五郎　伊達武蔵　伊達義宗　国分彦九郎
小梁川刑部　白石美濃　亀岡左近　村田右馬
柴田内蔵丞　藤田右兵衛　塩谷兵庫　泉田安芸
大條尾張　石田左衛門　黒木肥前　佐上中務
新田左衛門　石川左衛門　大立目修理　田子助市
上郡山右馬　大町三河　塩田将監　要修駿河
飯田吉左衛門　小梁川大和　中條伊勢　山崎玄蕃

下総守　宮内少輔　遠藤喜右衛門　下野山武郡

長尾石見

少右衛門

渡田伊豆　石田左馬介　多賀近江　遠藤山城

少近習

桜田玄番　牧野右馬　佐久小平　高橋左近

庄代勘解由　芝田岩右衛門　結城日向　小成田惣左衛門

宇庭伊賀　湯村右近　古田内匠（内匠ヒカリ）

一大内備前守ハ能登ノ上杉ノ二代ノ帰

一五月廿六日政宗公三ノ十五百余騎ヲ会津佐竹（少）馬芦名

義広ト少合戦会津ノ要害ヲ相立後藤孫兵衛ノ城ヲ六月

廿三日ニ攻ル米沢（少）帰陣此時会津ヲ少佐竹ノ物ト伝ル

九郎浮公子ノ兵会津ノ外ヲ攻ル上ニ攻ル会津（ノ）城ヲ

天正十三年　乙酉

十六月十一日青木修理弘房少佐竹方ノ条文

一会津一味塩松小手森城主大内備前少合戦七月廿三日

輝宗公政宗公少出馬軍奉行ニ長雲斎先陣伊達孫五郎

少右小梁川泥蟠左ノ白石若狭日ニ七ノ落城内十二ニ伊米内

内藤勘助ト云ハ少佐ノ方ノ条文

八月三ニ流彼城主朝倉右門国清ト少合戦日ニ落城輝宗公

ノ上馬先陣ハ田安藝後陣ハ大條尾張右衛門佐ハ大内備前
幕下ナリ
一岩角城主岩角丹後白石城主白石主水滑津城主滑津主
帝方ノ大表村城主大表久左ヲ後山城主後山十郎左ヲ十三
仏城主十三仏刑部八月六ノ日降下ス
一八月十一ノ大内伯耆守下大場城主里見年人ノ合戦五記英
次郎田左馬ノ先陣四ノ集人討死
一大内伯耆小淀城ノ落城シ死ス人数ハ五百二本松ノ行義継
勢ニ依テ小淀ノ城ノ城ヲ取ル八月十七ノ左城ノ元ル
一九月十六ノ二本松義継ノ降下ノ行ハルルハ十月六ノ事ナリ

一十月八ノ左京大夫二本松義継ハ見義家先大板中務ヲ
田内膳ノ家ノ田和泉ノ石連龍宗ノ一行ハ政宗ノ八ノ事野ノ
ノ上此時龍宗ハ義継ノ家老両人ヲ引立テ政宗ノ為
ノ命ノ先ヲ立テ来ル大隈川ヲ渡ル義継ノ
不残ノ付其節龍宗ノ生害四十二年義継首獄門ニ
ノ行日十八ノ夢枕ノ導師林仙寺ノ住職和尚覚範寺殿性
山受心大居士ト戒名ヲ内島陽右ヲ後田道空ノ追従型ノ年ノ
月十八ノ於ノ墓所遠藤山城切腹ノ八政宗ノ追従ノ
ノ日右十八ノ百ケ日ノ法事執行ノ追従ノ嫡子文七郎ノ
加増百石文ノ下ル

或記曰義継降参遠江ノ国ニ入ル山陸
ヲ経て武州ノ振兵ヲ合セ信濃山陸
ヲ経て武州ノ振兵ヲ合セ信濃ニ廻シ
一十月十五ノ二本松義継一子國王丸ヲ
連テ陸奥ノ小梁川刑部ヲ頼テ七千八百騎攻之
義元ノ軍合セテ三千五百騎ニ
ノ陣
一十一月十七ノ夜佐竹義重会津義広岩城常隆次賀川丸
迫修盛行相馬長門守義胤石川大和守白川刑部ノ
合戦政宗ノ少ノ馬冠ノ塚迫ノ泉田安芸ノ新城津山ノ志賀
伊東紀前二千余騎川上中野大條尾張中野伊勢桜田右馬

千五百騎白石若狭ノ軍ノ大勢五百余騎伊達ノ陸奥ノ
松ノ内ノ浜川陣（ノ浜ノ討死首数合九百二十一ノ内ノ討死武
百八十四人内北二ノ佐竹勢引退ノ合戦止此時義元佐竹
討死中村八郎ノ首数多討死ノ内北ノ加勢ノ下ノ
二本松ノ畠山氏ノ畠満仲三男河内守頼信ノ子伊予守頼
義ノ後太郎陸奥守義家ノ男武蔵太郎義国ノ子足利
判官義康ノ子上野介義兼ノ子遠江守義健ノ一男畠
山上野介義国ノ子河内守時宗ノ子上野介ノ子国奥ノ
探題ノ補ノ二本松二郎ト観応二年二月十七日ノ於奥ノ為
奥二男直義ノ自害ノ国姫子中野太夫玉氏奥ノ

管領に申渡長子修理大夫入道探題に補す國政初め二
本松を所住す長子修理大夫は奥探題に補す二本松良
俊と云長子浜松大夫持秀後に修理大夫と改む生子浜ア
大夫改秀長子右京大夫尚秀公子右京介義継之事
光和國定め二百余年を経し処今年没落
一永徳日記日七月五日大地震
一同年十月朔日秀吉公北地に於松原大乗院中興行
之礼
一十月朔日於小野松原大乗院中興行云不云莫不
採之可而今年合二保一興禁令簡約営可
中秀吉数十年来主人法道具所立置也来至次
第可云稱者也
八月二日
如道具目録
一青瓶　一長七寸五分　一盛堂二雲賛　一編せ之　一陸の絵
一内赤の盆　一三枚　一鉢跡天目　一竹ゝ茶筅　一七ツ巻
一ちろと巻入　一瓢箪　一珠徑茶筅　一鉢跡茄　一白天目
一尼陽巻　一栗寸茶筅　一竹ゝ　一ゝ全　一竹ゝの蓋也
一茶匙　一鉢跡水瓶　一柄杓立折尾　一全小あゝも
一縁掛　一五徳の蓋巻　一泪桃口の柄杓立　一せんゝ香炉

一朝山　一位前田花入　一四十石　一志野　一新田肩衝
一めんてい四方釜たてえ　一おとこせ　一兼盃台瓶
一やせみの天目　一折たの茶碗　一細瀬　一井戸茶碗

二番　千宗易利休居士　三千石以上

一鳥丸香炉　一唐の　一捨子茶碗　一ちりとて　一庭のくら
一せんせい　一鶴の絵　一ぬりの天目　一ちりれ茶碗
一籠釜の瓶　一竹の蓋置　一折ため茶杓

三番　泉州堺津宗及　三千石以上

一桔木　一撫子　一ちりれ　一入道蹲踞　一尾子天目
一ちりれ茶碗　一折ため茶杓　一竹の蓋置

四番　泉州堺住人宗久　三千石以上

一月の侍　一松花茶壺　一ちりれ肩衝　一蛇口釜
一ちりれ茶碗　一竹の蓋置　一三島茶碗　一折ため茶杓
秀吉公ゆかりの三ツ所にて茶道吳かさりて
一香　近侍　信捕公　日野　蒲資氏　家康公侍従　信長
ゆかりの前にて茶ちりれ数寄にて焼にてちりれ
十人衆白蓮院公家武家法人茶湯名機賞玩
古今無類の門興行と上下道具入ゆ八と目出度賞ら

天正十四年　丙戌

一同年四月二十二日松ゆ合戦ゆ出馬大将五陸元安ちりれ

雲斎伊達藤五郎佐倉小十郎白石若狭郡合一万八千
余騎月十七二本松国王丸義継を二本松城代之義五郎
成宗小浜城代白石若狭大森城代佐倉小十郎を指置
国王丸ハ相馬長門守子ゝ舟伊達兵部宗元扶持ハ
相助月ゝ米沢へ米沢ハ四城也
一十一月八日牲山公ハ一周忌ニ於米沢ハ飛行渋田伊豆守塚迫
江原田左馬介屋代勘解由を法事役ニ仰付
一或記曰正月七日ハ嘉例ハ殺生小浜ハ禁不ス〇七種を
ハ不ス也ハ法也

天正十五年　丁亥

一同年二月十五日ハ山城之氏家彦ハ上杉ハ人数を
以信ハ大崎左衛門義隆を討ス仙台家来山下安房
ハ上ス月ハ信雲ハ永田安芸大崎を小山田城米沢
田伊豆村田氏ハ宮内国俊永井月渋中村丹後田ハ助
三郎を城内防ハ横目ハ小成田左馬助（後山ニ改）宮内修理
都合五千三百余騎月月米澤出発此時小山田兵部
依て金の屋ハ五十六ハ家来を大崎を討死ス

天正十六年　戊子

一同年三月十八日大内紀伊ハ家中を乱る
一五月二ハ政宗公米沢ハ五馬月三ハ信夫大森（ハ石相ス）

門守ハ軍勢引率羽山の陣（竜石川浮山久國ハ小ゝ表の陣
（羽ゝ右両人ハ一味五月十日羽山ヲ焼拂夫陣横田左衛門二陣ハ
高田丸馬ヲ三陣国分長九郎
一五月十五日小ゝ表陣ヲ石川浮山ト合戦夫陣中務伊勢
二陣須田伊豆三陣佐竹小十郎右陣焼拂相馬長門守百
目木陣羽黒丸石川横津久重も相馬（引退月十七日陣ヲ
焼拂
一同月四日相馬長門守一味大窪表陣ヲ田村長七郎ト合戦ヲ
田村月斎（田村大膳大夫ノ俗ニ依テ名ヲ月斎ト称ス）陣ハ小門丸
一同十八日相馬顔大橋陣ニ石井の陣ヲ（ヲ）相馬人数罷ヲ抜ケ出ル

ヲ討ヲ敗走ヲ処ヲ三人ヲ不残陣ヲ的相馬（引退テ二月十
九日右陣ヲ焼拂
一六月十一日（十六日ヲ誤リ）ノ出馬佐竹義重岩城常隆芦名義廣信
夫（義広ノ弟ノ子ノ政宗ノ出馬
一同十八日福原表（ノ出馬佐竹義重ト合戦ノ勝利
一同十二日久保田ヲ佐竹義重ト合戦ノ勝利
一同廿五日久保田（ノ陣屋ノ為久保田ノ外大ノ人ヲ為
策略ヲ以ノ陣ノ要害ヲ焼
一七月五日佐竹勢ト新国上杉盛重二三年（千）諸達ヲ
陣屋ノ前ヲ通リシニ藤五郎成宗ノ月数ヲ首八百九十三

討死ノ侍ノ百人ノ内ノ分利ノ為ニ月ニ一度ノ給料ノ薄産ノ
事ハ為ニ後ノ新田上総ノ侍方ノ如ク
一月九日ノ宮上出羽守義光命律儀ノ所ノ政宗ノ公ノ
和ノ和睦ノ事ノ為ノ毎ノ公ノ中ノ正月十五日ノ永田安芸完
上ノ為ノ返
一月十九日ノ岩城常隆佐竹義重政宗ノ公ノ和ノ和睦ノ事ノ為ノ
月ノ大和昭光ノ十年ノ八月十三日ノ政宗ノ公ノ家老ノ
一月九日十二日ノ田村大膳大夫ノ家中田村梅雪丹右ノ大夫紀
伊田村連房ノ和ノ義ノ事ノ為ノ式千ノ家騎ノ三者ノ政宗ノ公ノ
出馬ノ為ノ岩城左京亮常隆ノ扶ノ依テ田村ノ家中ノ所ノ在ノ

ノ義九月十三日ノ家老ノ帰ノ月十日ノ事ノ来使ノ伺候ノ

天正十七年　己丑

一月年三月七日ノ佐竹助左ノ侍方ノ如ク
一五月四日ノ二本松ノ阿子盛ノ岩城阿子盛ノ為ノ岩城
ノ侍ノ伺候軍奉行原田休雪ノ為ノ成ノ人数都合三千五百余騎
一月五日ノ二本松ノ石田ノ岩城ノ立ノ参ノ為ノ伺
候ノ人数都合四千三百余騎軍奉行業新ノ為ノ月ノ侍ノ大
夫ノ岩城
一正月十六日ノ侍ノ大夫ノ出馬月十八日ノ宮郡駒ノ嶽ノ相馬ノ
持ノ城主三竜大膳千業俊ノ不相ノ合戦千業俊

敵首八百四十九馬丹討死三百大膳首八小弐右之討死数輩

一同ノ相馬長門守家臣伊具郡尾山城主浜田十郎左衛門郡

平塚城主大河内紀伊守四城主時田主斗少輔方に如ん

一五月十九ノ軍事ハ伊達政宗陣番安藤淡路陣業新治

郡郡合三千余騎ニテ宇多新地谷戦相馬長門守家臣

新地之城ニ籠ル仁木伝次城主ハ浅井城中ニ右両人降参之

命ニ応助政宗公ノ右陣代宮時玄番白石小紀伊藤宮

内上地茂深郡ニ籠ル駒ノ嶽ハ星木肥前新地城ハ五郎

兵衛丸表城ハ三郎左衛門ノ城ハ九三郎(九郎ヲ)伝次の大表ノ帰

一五月廿九ノ横黄代浮山盛宗少輔方に如ん金津三系家臣之

一六月五日ノ夜横黄代浮山城ニ居ル処ハ伊達陣横黄代浮山二

陣伊達小十郎三陣伊達藤五郎四陣白石若狭五ハ小弐元六

陣ハ濱田伊豆五ハ富塚近江大内備前右ノ大條尾張淡路平

助右ノ城ニテ攻上ル ニテ少合戦ニ金津侍大将金上遠江ヲハ

藤五郎家中安藤右ノ方ノ討死ハ同ニ金津侍氏依脇平八郎

ヲ家来所治郎討死ハ首千七百四十八ノ内ノ九百四十

三人討死ニテ白石若狭家中右ノ方ハ帰ル討死ニテ少勝利ニ

ヲ横黄代(少帰陣)

一同七日政宗公横黄代ノ出馬金川近ク大寺ノ野陣ニ居ル同ノ云

津藩下金川陣原田左馬介ヲ以前陣ノ横手金川出ニ云云

津藩ヲ南山和多ノ二郡ヲ三藩ヲ主ニ藩丹後右兩藩明後ヲ金
川ヲ藩（小梁川泥蟠大條尾張ニ分ル）ヲ主ニ藩ヲ
留守居近江中野ニ藩（白石若狭来折藩津藩代
ヲ主ニ藩ヲ）ヲ奉陣ニ為移
一會津藩主葉名右ニ衛尉義廣宿元留田英庶平田周防
南山刑部五月九ヲ以ヲ政宗公（ヲ）ヲ北陸會津
西郡ヲ入ル
一六月十ヲ會津藩主葉名義廣ト公武ヲ和ヲ評定有
義廣伊賀地上ハ藩間設ヲ為ヲ佐竹義重ヲ教ヲ
主従三藩四人ヲ入ル乞ハ味方ヲ願付為陣案ヲ用

夜ヲ平ニ為ル中留田義作平田周防南山刑部政宗公ヲ
共ニ十ヲ守谷守伯佐倉小ヲ石田丸ヲ佐木和ヲ太
田内匠勝村右近右ヲ人会津若松ノ藩ヲ別藩下楼藩
仮屋ヲ五政宗公ヲ入ル日十三ヲ右陣ヲ来ル光ヲ
ヲ下ヲ名抱此時會津没ル夫ヲ政宗公会津藩ヲ来
ヲ陣ヲ
一八月六ヲ会津家中伊奈伊保生樓田川口梁元藩ヲ依
頼会ヲ助右五ヲ藩ヲ石上右藩代ヲ為丹藤左ヲ藩ヲ
一九月三ヲ於会津ヲ合戦働ヲ侍藩田代弾正ニ北方五貫
文原田丸馬丹佐川百ヲ文来折治部ヲ為ヲ文大町藩ヲ二

[illegible]文古閑田[illegible]福田[illegible]番[illegible]文上野[illegible]
[illegible]文[illegible]長居新[illegible]上総盛景[illegible]長居[illegible]
[illegible]遠[illegible]田義作平田周防南山[illegible]
一次[illegible]川[illegible]盛行[illegible]津右[illegible]義[illegible]
[illegible]
[illegible]十七年十月四[illegible]若松[illegible]
[illegible]中保[illegible]江南[illegible]
一十月十[illegible]次[illegible]川[illegible]陣[illegible]新[illegible]上総保[illegible]江南[illegible]
[illegible]
[illegible]二番大[illegible]
[illegible]平田周防[illegible]番[illegible]田[illegible]
[illegible]上総[illegible]番白石若

殺[illegible]番[illegible]保[illegible]馬[illegible]先陣大内備[illegible]平助[illegible]
二番伊達藤五郎[illegible]小十郎[illegible]次[illegible]川[illegible]
一日月[illegible]会津一[illegible]次田[illegible]江[illegible]和田[illegible]合戦[illegible]
[illegible]
一日[illegible]次[illegible]川侍[illegible]田[illegible]伊豆横田[illegible]郎[illegible]中[illegible]依[illegible]
知行[illegible]
一月十一日[illegible]次[illegible]川扶[illegible]小原田[illegible]原田[illegible]
[illegible]依[illegible]小原田[illegible]
一日年十一月四日白川[illegible]次[illegible]川[illegible]
[illegible]義[illegible]

政宗公御代

一同日次郎川崎石川大和守光[illegible]之

一同十一月十[illegible]白川郡之内那須境関和久と云所

新城[illegible]築伊達藤五郎白石若狭守[illegible]城代

一同十二月五日政宗公若松の城へ御移

天正十八年　庚寅

一天正十八年正月會津城を御城代成実伊達武蔵宗俊

石川遠江義宗　伊達藤五郎成実　伊達武蔵宗俊

五郎兵衛宗重　浜田伊豆宗信　原田左馬丞宗長

富塚近江信綱　遠藤武兵衛基治

會津[illegible]石出[illegible]

松前代浮山　新国上総　石田主殿　平田周防

佐竹武部

田村[illegible]石出[illegible]

田村月斎　橋元刑部　常盤伊賀

仙道[illegible]

大内備前　佐平助左　福原陸奥　本宮尾張

[illegible]倉道江　横田治部　保原江南　浜尾若狭

守屋筑後

一二月十三日会津城後堺津川崎[illegible]石上[illegible]軍[illegible]

塚迄に参ず公義様

一三月五日政宗公相模小田原へ御出馬と羽柴筑前守利家・浅野弾正公義長・会津中将氏郷・同八幡若松中将氏郷・北條氏政・秀吉公（遠四方北條一族上野下野関東諸侯人新関と構ひ通路不致来人新関通路同北条小田原へ政宗公合戦義秀吉公へ不審在之）

一横田陣代より結城中務丞遣て合戦之次第八幡宮平田勘右衛門尉伊達成実（依去年四月五日川崎豊前守来折紙物之儀為御代官切腹仕候也）

一四月廿一日政宗公へ於小田原浅野弾正殿聚院法印両人之儀秀吉公へ上意に会津仙道合戦為公儀御不届依之会津并仙道八郡召上本領安堵遣之下総へ御移上意之依て同廿二日秀吉公へ会津へ召上れ秀吉公へ浅野左右衛門尉正勝会津へ元五月十日政宗公へ同道会津へ御下り同廿六日会津城へ御入城

一秀吉公奥へ御下向為御定政宗公へ八月廿二日米沢へ発駕て出羽国小山へ御出秀吉公上意に南部へ演御合戦不致由依て石田治部浅野弾正殿被仰政宗先陣に御出八月七日会津へ御上京之

一政宗公南部へ出陣八月米沢より出馬同十九日石田沢より
濱中浮正と米沢へ帰り出羽国日本二て南部へ出陣
政宗公三千家臣七戸八戸両人出羽国迄て七月七日
南部へ五千目と出羽国迄人数引取政宗公米沢へ
帰陣

一大崎葛西ハ秀吉公木村伊勢守へ仰付大崎葛西
浪人迄人数相拵て田政宗公へ仰付候日十月二日出馬
出羽国迄三日宮城郡迄元泉寺
秀吉公より出羽国大崎へ出馬古河新沼中新
田宮城と迄公より出羽へ迄付て来天正十九年四月十日米沢へ

一成親日永井庄兵衛尉伊達安房成実並同日
豊臣信康仰付出羽へ長井へ陣引取出羽
仰付候陣仕彼地一揆し旧城を
仕出て二千人右豊臣二十七年秀吉へ仰付
仕候行て遠藤宮内大立目修理小田野何村岩盛
物主十三人を預置
一家忠公へ出羽五月十四日講白結城小田原へ来て秀吉
御九て伊達政宗奥へ入り発し越後へ迄出甲へ入陣
小田原へ来り秀吉に御せんと諸へ政宗号時二十四歳
発二人異神之秀吉へ白我大勢へ辛へ北条へ攻公是に依

テ上杉景勝佐竹義重聘使ヲ馳スト雖モ獨不然其侵シ
取処ノ會津仙道ヲ速ニ返スヘシ但シ米沢三十万石ハ元ノ
如ク領スヘシ若此旨ニ背カハ早ク帰リ去レ汝カ會津ニ
至ル頃ハ必北条氏ヲ滅シ早テ軍ヲ會津ニ発セン政宗答
テ曰死生ヲモ是命ヲ聽ン況ヤ郡邑ノ事其旨ニ従テ去
津仙道ヲ返スヘシト云テ暇ヲ告テ帰山田信ヲ去レトモ
一御書上記ニ云天正十八年秋政宗奥方上方ヘ為
お登ヲ四

天正十九年　辛卯

一正月廿丁政宗公ヤ上京二月十八ヶ秀吉公ヤ目ヲ二月

十一ヶ政宗公ヤ官位ヲ昇ヲ従四位下越前守ニ成ラセラル六
月二ヶ京都ヤ発駕ヲ廿三ヶ米澤ヤ帰城ス
一正宗記云正月廿一ヶ政宗公米沢ヤ発足ス乾信寺ヲ乾信寺ヲ
表ス二ヶ月ヤ五ヶ年二本松ヲ攻ル漢西屋ヤ来ル云ヶ上路
ヲ出ル於京都妙覚寺ヤ名ヲ佐竹大関様ヤ目ヲ付ル
所品々ヤ頼候ヲ上ヲ云ヶ下大時若西ヲ一揆近隣ヲ在
田ヲ佐竹ニ依ヲ日年五月末ヤ名ヤ人数ヲ佐竹六月末
ヲ米沢ヲヤ五ヶ年白石ヲ五六ヶ遣ヲ米ヤ川将米
置ヲ門ヤ移六月廿四ヶ宮城ヤ御ヲ小野田城ヲ石川長門
ヤ奉ヲ四全城主四全尾張小ヤ田ヲ佐竹ヤ奉ヲ

信濃ヘ佐渡ヘ流移

一加賀郡大崎一味し宮崎城主宮崎英俊ハ逆討七月四
宮崎ヘ合戦為城主侍小池田城主石川五郎兵衛
城主長谷袋九郎左衛門四釜城主四釜尾張政宗ハ奉公仕
政宗預ケ置ル

一同廿五ヶ大崎一味高清の城（伊達成実白石城主桜大條尾張
信義小ヶ中糠田童男長谷袋城（伊達成実石田左衛門
佐郡中崎伊勢信平助左衛門ヶ城主日ヶ右衛門城又
一六月廿九ヶ葛西九郎左衛門信一門ヶ家右近日ヶ九郎大将
として佐沼の城に籠城日ヶ政宗ハ馬七月郡ヶヶ合戦

日ヶ城ハ日ヶ米沢ヘ移り
六月廿日秀吉ハ家康秀次ハ家康ハ日道ヶ奥羽
ヘ向政宗ハ為ヘ迎ニ奉松ヘ岩ヘ目ヶ秀次ハ羽柴
来ヶヘ向家康ハ後世淳ヘ日道来ヶ岩ヶ山ヘ岩秀次
ハ羽ヘ岩ヶ山ヘ岩ヶ山佐沼の城彼郡ヘ蒲生氏郷
ヶ大崎葛西上洛十月廿九ヶ岩ヶ山ヘ伊達信夫田村ハ田蒲生
九郎淳宗氏郷（ヶヶ又柴田伊賀五郎名九ヶ多賀城ニ川
大崎五郡葛西七郡ハ政宗ハ（ヶヶ岩ヶ山城ハ家康ハヶ
政宗ハ（家康秀次ハ家康ハ後所淳ハ日ヶ十二ヶ岩ヶ山ヘ發
駕ヘ上京ヘ　大崎五郡ハ志田道田玉造栗原玉造　葛西七郡ハ本吉　岩井　伊沢　仙北

登米　気仙
小泉　桃生

十月十四日政宗公岩手山ノ侍屋敷ヲ別ニ年玄米決田村信松
ヲ以テ中書子岩手山ノ移ル

一月五日ハ伊達藤五郎成実角田ハ石川大和四郎光演春ハ伊
達民部重宗利府ハ伊達武蔵宗俊登米ハ白石若狭宗直
佐沼ハ片倉小十郎宗綱高野ハ原田丸馬丸宗長矢野ハ年ハ
母隠居ハ信濃川ハ遠藤文七郎基治赤生津ハ茂庭石見綱
元拾九ハ大條尾張宗俊荒浜ハ泉田安芸重光金山ハ中條
伊勢宗長高水ハ桑折武蔵定重岩沼ハ小梁川中務宗泉
前沼ハ大内備前定綱仙刺ハ結城代淳正盛宗ヲ以テ

一年代記曰天正十九年十二月ハ改元文録元年ヲ申ス二十
年ハ元年ヲ

一同年ヲ秀吉公ヲ伐ハ来二年ハ朝鮮ヲ伐代ヲ秀吉
政宗公モ奥国渡海ノ用意ヲ上洛ヲ以テ長兵頭地ヲ
国ヲ云国ヲ又ハ一揆ノ海ヲ云頭地仕ヲ申ス人数五百人ノ外
不ト云連ヲ申ス和ヲ長兵政宗公ヲ参ル五百人ヲ上洛
ヲ人ハ長ヲ参ル三ヲ馬上三十騎徒歩百挺ヲ五十法螺
百本ヲ参ル三十本物人数千五百人ヲ供元帥ヲ
一或説云天正十九年家康公大崎葛西南部ヲ仕ヲ伐ル
ヲ申ス云ヲ北目ヲ移ル十月五日千代ノ陣中ヲ一説ヲ申ス

[illegible]

一武祀日天正十九年申年政宗公岩城山ヲ攻給ヒ
[illegible]ハ文録元年正月九ノ高麗ノ陣ヲ[illegible]五[illegible]黒川ノ[illegible]石
[illegible]ヲ[illegible]廉特[illegible]

一津田書上ニ記曰今年真山様伐[illegible]ヲ[illegible]及ノ[illegible]
柳伏見の国於津田ニ地大閤様ノ御目豊ノ[illegible]
[illegible]金ノ[illegible]
[illegible]長谷川式部ノ[illegible]
[illegible]真山様[illegible]
[illegible]補大谷刑部少輔長束大蔵大輔[illegible]
[illegible]

氏ヲ津田ヲ[illegible]ノ加勢ノ[illegible]
[illegible]

一文録二年正月九ノ高麗ノ出陣ニ[illegible]政宗公ノ人数五百人
[illegible]ノ[illegible]大隈菊西ノ[illegible]
右ニ通ル[illegible]ハ人数ノ中ニテ一千五百
人[illegible]朝鮮国ノ[illegible]政宗公ノ[illegible]
伊達藤五郎　伊達宮内　常陸様　大隈長民
石母田大膳　泉田隠岐　大内備前　小梁川泥蟲
白石若狭　中條伊勢　佐倉小十郎　[illegible]
大條義[illegible]　中條大蔵　山岡志摩　津田民部

湯村信濃　早川内記　真山五郎左衛門　古田九兵衛
牧野右京亮　柴浦遠江　内藤湯能　中津川丹波
寺屋伊賀　堀内藏人　五十嵐信濃　佐平紀伊
今村右馬　伊達上野介

小牧弘元

村上豊後　石田作左衛門　多川主殿　池田庄吉
早川太吉　大津長門守（後ニ吉田）　宮崎主水　多保山平次
中條新六郎　伊藤金七郎　木村九左衛門　松本久藏
服部与藏　新庄新左衛門　湯目勘十郎　氏家又助
渡田運次郎　榎田九介　前田河平内　前田河主馬

臭井源次郎　西井新左衛門　木町庄八郎　多保久左衛門
笠原与三郎　加川助左衛門　大町清九郎　宮崎主水
小倉左

原田九郎兵衛　多保内藏介　遠藤文七郎
小先（長谷）元

大町主計　大松伝左衛門（小五郎左衛門）　柴浦

小林筆元

大石長門　武山修理　大和田筑後
小田朋元

黄阿彌　角阿彌（小林三郎左衛門）　平三左衛門

[illegible]尾[illegible]

小[illegible]陸[illegible]　小[illegible]兵助　平[illegible]　飯[illegible]

木村[illegible]七

[illegible]百[illegible]

荒井[illegible]　佐藤文助　荒井外記

[illegible]明

[illegible]治助　佐[illegible]助　[illegible]合百助　松[illegible]

平[illegible]　志[illegible]　長尾[illegible]　城[illegible]十内

支[illegible]　安[illegible]　[illegible]　[illegible]木五[illegible]

太[illegible]　内[illegible]　細谷[illegible]　[illegible]一助

永[illegible]

[illegible]不断[illegible]

梅津[illegible]　[illegible]文[illegible]　坂[illegible]　塚目[illegible]助

前[illegible]　八[illegible]　小[illegible]　[illegible]文[illegible]

[illegible]　[illegible]　武田[illegible]　佐平[illegible]

二[illegible]文[illegible]　油井[illegible]助　[illegible]田[illegible]　[illegible]

前[illegible]運[illegible]　[illegible]　門目大[illegible]　[illegible]次[illegible]

新田刑[illegible]　安[illegible]金[illegible]　[illegible]合[illegible]　太[illegible]小[illegible]

[illegible]　相川[illegible]　[illegible]田新[illegible]

[illegible]馬[illegible]葉

古山久助

中馬元

かゝ之介　兵助組分十人

小人荒組

相之助組　十五人組

肥前国石護屋ヶ浦之住

義慶石見守

日ヶ用人

終末七人

京都ヶ留之住

遠藤門蔵介

岩ヶ山ヶ留之居

屋代勘解由藩

一同年秋天正十九年　後陽成院の帝へ豊臣関白秀吉公ゟ仰上

日本中氏姓大系図之通太田和泉守源朝臣重光以日筆

記之

人王三代

一安寧天皇　中原朝臣

全十一代

一懿仁天皇　和気氏　半井

全二十九代

一宣和天皇　多治比氏

全三十一代

一敏達天皇　小野氏　橋氏　吉弟氏　主殿　楠

和田　楫生

全三十七代
一孝德天皇　難波　狛倉

全四十二代
一天武天皇　清原氏　高階氏　芦屋　田中　窪田

　　夜部　岡松　小高　大多和

全五十代
一桓武天皇　平氏　大極　小松　江間　大佛　谷戸

　　塙田　常盤　金沢　阿曽　相馬　大庭　加茂

　　長田　村田　梶原　和田　長尾　高井　田中

　　朝夷奈　三浦　大河戸　北條　岡崎　真田　芦屋

　　中村　千葉　菅西　秩父　小山田　榛谷　川越

　　渋谷　河崎　豊島　金田　天野　畠山　小澤

高山　江戸　土肥　土屋　二宮　池　笠間

小笠原　良峯　佐竹　大芦原　村岡　波多　大須賀

岡部　武石　東　板倉　佐原　陸奥　長田

奥山　三浦　堀　加地　阿多見　小野　庄田

伊勢　鶴尾　三重　栗谷　安達　高沢　板橋

板原　本庄　本梨　磯部　木原　山田　田卿

高原　垣本　織田　飯尾　津田　永沼　中根

全五十一代
一平城天皇　大江氏　上田　小沢　古川　西目　笠松

岩田　萩袋　丸沢　高沢　細口　長井　大脇

法泉寺　高嶽　毛利　山口　海東　小早川　吉川

久留米　白　高屋

全五十二代
一崇峻天皇　源氏　廣瀬　楊梅　横川　田中　渡部

全五十五代
一文德天皇　松浦　蓑田　赤田　小迫　見多

全五十六代
一清和天皇　源氏　多田　伏津　溝杭　井上　小野

野瀬　金屋　馬場　田代　山縣　多羽　小岡

大中川　小船津　小中川　久瀬　福瀬　源柄　松瀬

坂田　尾崎　坂　飯倉　栗地　荒巻　荒巻合

大谷知　陣谷　清水　神地　平地　能勢　田尾

郡戸　高井　古賀　城地　三栗　源伏　尾里

萩原　樣子　新家　八谷　金山　古賀　永木

福光　黒保　瀬田　世安　揮発　池田　鷲尾

金宮　乐山　明地　原　芦原　戸坂　鷺場

麻生　栗田　竹田　茅田　大瀬　奥　宇野

廣瀬　入野　入屋　土方　大曲　辛川　豊瀬

高木　黒知　大田　大野　胡日　楊梅　岩竹

石川　川尾　市橋　伏田　成田　矢伏　二川

柏原　杉坂　戸瀬　中川　山田　小瀬　伏渡

足助　木田　本田　相模　善横　坂田　郡高

佐相　夏目　平瀬　瀬　田村　伏井　源藏

平賀　板橋　手沢　石橋　常盤　山本　牛馬
武田　色見　一條　板垣　塩松　南部　天野
小笠原　加賀地　田中　平井　八代　浅利　到馬
阿戸　木村　志田　畑江　戸部　拾[illegible]　志
加茂　内谷　吉良　阿地　新田　竹林　中沢
大井田　多山　里見　一井　宮　服屋　大波
世良田　水戸　結城　額田　白田　長谷　足利
矢田　上地　細川　戸加賀　荒川　畠山　矢松
桃井　二本松　吉良　東条　一色　思山　長谷
今川　品川　西尾　関口　志波　渋川　稲田

篠川　大堂　石堂　上地　加古　和田　廣沢
大坂　新波　万力　若槻　中沢　浅倉　宍草
小俣　万戸　小松　方原　佐毛　飯沢　村上
佐坂　下條　上條　屋代　平地　寺谷　入山
飯田　土浦　小地沢　平屋　宮田　千田　古地
西川　林　時田　幸田　矢井　小坂　宮田
佐久間　鳥屋　栗田　芦田　米持　多梨　関山
芳賀　次田　國井　宮　服部　佐竹　柏生
大楽　寺利　大高　早水　高橋　稲毛　多賀
石木　多原　馬渕　秋山　麻殖　米里　小田

伊地　河内　大井　長崎　蠟崎　大金　安田
泉　二宮　田井　芋根　幸古　利兄　木津
新津　大年　大内　金沢　大寺　柏木　毛子
八崎　中沢　坂本　芋谷　吉地　芋生　蒲生
多胡　土水　岡田　芋谷　津保山　下芋　浅
白川　阿波　高田　辻長　長本　小原　和南
大町　小椋　高長　林田　坂東　樋口　柳
二柳　伊那　西　大室　柳木　八條　中野
松井　押田　廣瀬　戸田　浜野　小塚　依田
飯沼　那次　長坂　和二　高谷　高塚　沢俣

矢利井　伊場　川西　一柳　室賀　新沢　新井村
依那田　法花　白川　竹谷　空塚　大給　給木
坂金　岩津　仁木
一光孝天皇（今五十八代）紀氏　菊塚　吕磐　田中　西竹　東竹
高松　家田　入江　芳賀（俗氏）　池田　池　板下
高長　高井　陸田　大井　伊長　品川　塊
春日部　少藏
一宇多天皇（今五十九代）源氏　依木　六角　京極　大原　長田
高橋　馬閑　高屋　岩山　鞍鉢　坂木　加沢
見宝　木谷　吉田　岡崎　岡野　桂　陸

葛巻　高眼　高山　長井　田中　長江　堀部
青地　伊佐　山中　磯部　本戸　机　庄子
村　江部　冨田　山佐　小澗　竜柄　萩原
井　古志　陽　高巻　柿谷　永原　稗村
私田　俄野　梅戸　塩谷　川端　建部　高宮
磯辺　五辻　大宮　志賀　井上　三上　箕浦
多賀　冨宮　志野　山崎　多原　表川　松下
白井　坂内　山内　木村　有田　野村
一醍醐天皇　源氏　亀谷　岩倉　木造　坂内
一村上天皇　源氏　岩倉　亀谷　赤松　小畠　木造

坂内　春日　壬生
一天穂日命孫　菅家
一吉備大臣孫　加茂氏
一後漢霊帝孫　丹波氏
一百濟国林聖太子孫　冠家　大内　山口
一大職冠三代武智麻呂四男乙麿孫　藤氏　工藤　特氏
宇佐美　林　河津　伊東　芳賀　久津美　入江
原　中原　矢田　墨部　白尾　孤戒　島原　玖田
北辺　池尾　蒲原　池戒　深川　矢田　吉香　波梨
深堀　二階堂　懐嶋　冨口　白川

一茂知麿公五男巨勢麿五男玉作孫 藤氏 加茂
大井 英水 放井 平野 中川 中村 樋川
一巨勢麻呂十三男負嗣公 茂氏 池田大宮 千秋
池田 吳地 降谷 篠田 岡崎 樋田
一大職冠四代河辺左大臣奥名公五代時長谷流
藤氏 足田 赤塚 安茂 冨松林 太田 堀
大浦 牧地 泉 富田 山上 横口 迫 松任
坂津 白口 宮永 大栗 佐々 豊田 飯川 茂井
金光 弘 加茂 遠山 水地 蓑崎 浅茂 西山
大上口 崎田 吉田 吳部 安東 稲津 保田 河合

安原 内茂 迫茂 竹田 川口 地本 押 片田
四富 宮田 吉原 栗生 長井 坂井 坂崎 服部
青山 芦崎 志山 千田 前田 熊坂 吉木 茂崎
水田 中村 木田 勢田 矢木 吳 桜井 生江
大見 赤井
一魚名公五男茂成公孫茂太秀郷流
藤氏 平泉 日向 佐藤 浅茂 迫茂 成茂
崎田 大友 吉沢 田村 亀谷 水谷 菓地
陸田 箕和 首茂 尾茂 伊茂 中條 池田
太田 大河戸 佐久 三郷 大方 乃妻 小山

茨師寺　中沼　管室　結城　毛川　山川　白戸
細戸　下河辺　益田　幸嶋　天保　佐沼　山上
足利　佐野　阿多沼　木村　大胡　光兎　佐貫
長沼　大屋　皆川　伊達　信夫　野木　平方
大内

一奥名公一男警所と二男警所と後嗣
茂氏　今川子　大伏　秋田　安達　国兵　大室
小北田　外島　大多根　伊北
一大職冠六代末裔公孫　茂氏　猫目　西宮　北小路
一同六代冬綱公七男長門公二男高茂公孫

藤氏　松浦　吉田　北尾　所　小庄　松山　芦山
上枝　近茂　壬生　堀　箱崎　熊沢　猫目
一同十一代兼家公孫藤氏　柿梅　樋口
一同兼家公三男道兼公孫　藤氏　八田　宇津宮　小田
上條　小山　怪屋　中山　笠目　小藤　藤生　奥
高岩　田光　伊志良　茂木　宍戸　山北　田中　高野
河辺　中条
一同七代長良公孫　茂氏　後茂
一同十四代京極摂政師実公孫　藤氏　法性寺
一同十三代伊周公孫　児玉氏　西　多田　埼川　本庄

[illegible] 矢部 庄 四方田 牧西 佐谷 牧野 佐山
山幡 又夫 吉森 大河内 平 保尾 高山
清上 佐瓜 大塚
正統之分也此案慶院多り

文録元年 壬辰

一天正十九年辛卯於岩ノ山ノ城年ノ来年内ノ高麗入
ノ文度ノ道具其ノ事郡(ノ)ならべ
一正月九ノ政宗ノ公ノ山ノ城ノ駕黒川郡七郷ノ内ノ岩ノ来各
元宝陣黒川保谷松山ノ麦ノ高ノ石集大塚ノ米百姓共有

112

結為ノ瓜勢ノ八ノ人ノ作ノ月十一日七郷ノ内ノ麻将ノ多ノ猪屋
三百余首ノ供瓜岩ノ山ノ瓜ノ右廣ノ高ノ岩ノ山ノ富ノ抜ハ
歴代動解由吾屋景勝ノ作ノ月十二ノ岩瓜十三ノ九郷ノ内ノ石
二月十三ノ京ノ高ノ秀吉ノ公ノ作ノ八政宗ノ人数田舎ノ五ノ異粮
ノ九ノ瓜ノ馬上三騎ノ甲冑ノ二領ノ作ノ月年春肥前名
護屋ノ内ノ先ノ浦ノ出陣ノ二月ノ来ノ出陣ノ大名ハ波多中納云
秀信浅野弾正大夫相馬藤五郎木村常陸守加藤遠江守
三月一ノ人打ノ大名ハ一番ノ三河大納言家康ノ人数ノ五万五
千人二番ノ結城中将秀康人数千五百人三番ノ大和大納言秀
俊人数ノ五万人四番ノ加賀宰相利家人数八千人五番ノ城侯宰相

113

景勝人数五千人六番ニ伊達侍従政宗人数千五百人七番ハ常
陸侍従佐竹義宣人数三千人八番ニ會津少将蒲生氏郷人数
二千人九番ニ最上侍従義光人数千人十番ニ阿波中将人数
三千人之此外ニ大名連續して数を知らす秀吉公聚楽亭
より一條戻り橋へ懸り往ひ景勝屋敷前大宮通りと出る
あり供大名の人数美麗を盡して供奉をなせし政宗公の三十
本の旗ハ紺地に金の丸之其人数足軽まて黒具足に前後に
金の星をつけ鉄炮の足軽ハ小大笠長三尺程あるを冠りを
刀脇指ハ銀の熨斗金付鐺かんむりありに至り朱鞘之
馬上三十騎ハ秀吉公へ鞍下の具足を着し母衣懸付半月

の立物之金内具田左京亮宗義遠藤孫六基治ハ刀脇指常の如
く指脇原の太刀長さ三尺柄に拵ハ鐺より紐を付て肩
に懸けて公家武家不残に驚嘆を植へてんあらまし異形
のことのハ伊達こそのと云傳へたり先ニ京童の伊達の若
と是ハ解れり政宗公其儀ハ何んと云如く少筋兵之秀吉公
少輔乃廿万騎 四月廿一日名護屋ヘ御着陣之
一此時政宗公家康公に謀りて佐竹義宣より先に行列を供
へらる義宣秀吉公へ訴へらるれハ義宣ハ政宗の先を乗り
手ぬ然るに政宗義宣に先立て行列を相ゆる依て政宗
より何に依て先を争ひやと此とき上ハ家康公下知に依て

先年中接戦之至紀州に於て敗北之秀吉公石田
治部少輔を以家康公に早々八家康上洛して政宗
と義宣とを先に立の所之義宣ハ家康の海を先と
と義宣ハ家康公家田侯に
て京都年政宗に下知の趣何の儀とや家康公家田侯
年之内上洛の時の海陸八本多中務大輔と
年之内上洛して我方の海陸を政宗に信
不に付ハ中務を先陸に立の方我方海陸を政宗に信
て行列をなす先年奥羽一揆を近隣之所下る時岩城
山伯居の城を政宗に攻る時政宗我方に
若年と云遠国の生れて上方初めて毎事に
中に成方の通下知を受て行家の義宣

政宗公先を切て全四月秀吉公肥前の名護屋に
着ケ陣の北に入海を隔て家康公加賀利家陣場
を云政宗公も其北の方に陣を西八佐竹宰相
秀康之
二月廿日すぎて始異国へ渡人冷水を求る
家康公の陣場の下に清水を利家の陣ハ二
所に隔て利家家中の若侍ハ水を家康公
の家臣ハ水を汲に口論を双方の
に荷揚人集り双方二三千人出合たり中も家康公
方に八本多中務大輔を始大名数人服部半蔵

出羽二三百騎持せて利家の陣の後へ廻り出て利家
の本陣を打破る所を用意之儀のうへにて双方赤旗
を出され兵弓鉄砲長刀を持て及合うされ共利家
方より大名分の者一人も不出政宗公双方の勢切の
内を元命寺家康公へ別て入魂の内なるゆへを家元
二三人を以て双方内々に仕掛をるに太閤引きとり秀吉公
武闘争を内々に家康公利家の陣所内ゆへ海を隔て
遠方内々に陣所を別與各陣所を移之
一七月十四日利家家中前田孫五郎と云者政宗公の内陣へ
(踏をあ[illegible]る之政宗公ゆへ[illegible]おそれの[illegible]ゆへ

家中の人々に警固を仰せ付られ日暮晩加賀利家へ渡
の内へ被ゆるされ家来一人の者を待不に家康
公陣所へ同道仕り申と云者相原新五郎を切殺へ出る之
利家政宗公の陣所も近き故出入之ゆへ
有騒動して渡ハ渡る止られたり

文録二年　癸巳

一正月政宗公慶長十年正長政と一同に朝鮮渡海を仰付二月十
五日に内府と家康へ和談成合後座つに北之丸内府を
家康政宗公陣へ内府内陣内家中ハ内府中と云海

廿三日迄風強く船を出すこと和船海上へ入れ申候
浦々は国風平に成り船を出し二月中旬先へ出船いたし
肥前平戸島内藏允信國も日風本に逗留三月廿三日
に浦々出船一度に出船致し伊達上野
介石川大和照光伊達藤五郎伊達美濃重宗白石若狭
殿等十人出船の風本に船を中途に船を出
日廿三日和船対馬の府中へ着船政宗公淳正父子
先へ出船の中名廿三日に船を出船の風本
の風本へ帰り廿三日に浦々出船いたし中
八淳正に門倉を釜山海へ着船し政宗公先へ渡海
と淳正のもと政宗公も出船釜山海へ着船し
政宗公へ
信田左衛門宗長佐倉小十郎宗
綱白石若狭宗実も政宗の浦々淳正父子と万事入
魂いたし居る見かけ申候直書を拾ひ
二月四月浦々淳正尉山表の陣兵攻撃する政宗公数ケ所陣
を攻元敬数多討死致し陣兵八先達て日本帰責元て
以ても人数を竜玉瓶に朝鮮の郡へ攻入る月又朝鮮
人部陣する処へ馬の兵淳正父子政宗公に又攻崩され討
浦々へ出船の山中に門竜を出政宗公歩兵四五
十人陣道具を元に出る船を朝鮮人山上より人数の捕さ

るを見て切腹致し五六人討死らるゝ政宗公大に怒り五人物見を出され山上より見くだす木立深き谷に二百人ばかりの伏兵を夜中に入置翌日先のめり歩兵四五十人新発に山中へ入られ朝鮮人又人数の強きを見て討て出る処を谷の伏兵後より鉄砲さんざんに打掛て政宗公少薄所なりも和勇り引色を首八十三討死る別て首も浮田秀家遣られる浮田なり名護屋へ注進ありし此時秀吉公なり感悦なる

今度巻山海表城野浮田父子其外諸軍勢及船数多出来方助合得失利害夫日本国中八家秀吉

三国無双無比類高名前代未聞不具其方名誉

具秀吉日利を付天下之外聞不道之評論仕之

城度々抜覚悟事一長依為体

文禄二年六月八日　秀吉判

羽柴越前殿

一日本の加勢朝鮮に為渡し五の陸兵攻崩し成敗を

呉国に振ひ之も惣軍の兵粮はなして士卒大に苦しみ

依し名護屋へ注進有兵海上運送自由なる此時成

地浮田兵粮を以て諸軍を飢て政宗公大に怒り浮田と少

快らに浮田も又是を恨んて不和を為るに晋及牧目り

始名護屋在陣の諸大名伊洛之朝鮮渡海の大名凡
も西国凡の外東国の大名凡八十月伊朝之政宗公も
月十日名護屋（肥前）陣之
一同七月廿九日赤国博モクソ判官博義陣を討元首
三千七百余
一同九月十三日政宗公伏見（肥前）石田治部少輔
を山（肥前）下向ハ長浦生玄清宗病死家中出入
息義宗ハ（肥前）於ハ方石ヶ海武ヶ五郎野国宗博
（国号兵庫仙道信夫刈田共百五十万石拾度幸相京
勝（肥前）下之

文録三年　甲午
一三月廿五日秀吉公諸大名を挽て吉野山（肥前）花見
も（肥前）供ヶ（肥前）て（肥前）山（肥前）日廿九日吉野に於て花の盛を遊て各
詠歌あり○おもふ〳〵さくらの花をたづねてはかゝる世
ちゝて花をたづねもとめ　政宗
一同廿六日関白秀次公ハ秀吉公の（肥前）妹武蔵守二位法（肥前）
一路の書の出生を為ハ（肥前）ふ（肥前）ものを秀吉公養て子
と（肥前）関白職を譲り聚楽に於て天下を守ハ（肥前）
秀吉公ハ名護屋に越て朝鮮征伐に肺肝を脳さゝ（肥前）
秀次公養父の学を顧遊て悪虐を好て兵学を

甚三郎と秀吉公宮部善祥坊徳善院玄以中村式部少輔一氏山内対馬守一豊堀尾帯刀吉晴あと奉行に成し秀次保教の企有りて世間の流説はちこと対面の期に非れども解怠なく早く伏見に来て陳謝せば尾張殿も又後て深く云て吉田修理亮に八秀次を留て注ずと不敢秀次遂に吉田修理を不用五使に連て伏見に至る高野大膳亮に家に入て使をなし其要を責て高野山へ登らしむ秀次公妻を刺て伏見を出て高野山に入青岩寺に住て秀吉公福原長右衛門尉伊藤守辰右衛門尉に出て秀次公に自害を勧め給へ三使青岩寺を囲む秀次公自殺

せ給ふの事弱年の時の文録四年七月十五日八月秀次公の室中二子侍女三十余人三條河原に引て首を切る此外家臣丹羽大膳亮息女宮上義光の娘あり秀次公先年相模へ下向の時義光諸て生涯を以て例為ものと云ふ秀次公の御堂を造る成ハ諸せられ成ハ流れ成ハ成せらるると云ふ浅野弾正少弼子左京大夫ハ秀次公相伴ありて故に石田治部少輔に対して大変押籠られて通塞ありて浄正院を中て上洛あると政宗公も秀次公の事を石田治部に問て上洛と為て上方の諸家の大名ハ中の達も兄弟と成政宗公も秀次公保教一味の中上洛に達せ

上洛之節ハ生駒雅楽頭殿ハ政宗公ゟ石高ゟ
過過難分ゟ之ゟ御に申上洛之為ゟ入魂之ゟ本ハ施薬
院へ出ゟ之ゟ立ゟ之ゟ此ゟの難義仕ゟ計へ之過ゟ英ゟを仕ゟ
石田ゟ施薬院ゟの屋ゟに八早く大坂秋ゟ屋敷へ入
居ゟ之ゟ依ゟ施薬院へ申ゟ成保敷に政宗公ゟ一味と
云ゟ仕れゟ之ゟ聞ゟ也ゟ之ゟ八政宗公ゟ代ゟ仕ゟの
侍ゟ彼ゟ子為八申ゟ云ゟ之ゟ殺害ゟ之ゟ之ゟ石ゟ不ゟ出
相国ゟ重へ近為ゟ之ゟ申ゟ陣主上郡山民部家中の者人ゟ
捕ゟ之ゟ成後へ之ゟ之ゟ京都へ近ゟ之ゟ秀次公奉公
仕ゟ次第に歴上ゟ申ゟ近ゟに候ゟ之ゟ朝夕秀次公ゟ別ゟ古生

政宗公動ゟを仕迷惑の申ゟ之ゟ八秀次公政宗公へ申
ゟ之ゟ依て政宗公ゟ申へ上ゟ之ゟ成ゟ政宗公屋敷の時ハ白状
ゟ申ゟ近ゟに仕難中にて八元分近ゟ申ゟて申機嫌ゟ之ゟ祝
に他人の目ゟ之ゟ八秀吉公ゟの申ゟ之ゟ之ゟ人へゟ之ゟ為ゟ仕ゟ
政宗公秀次公へ一味の申ゟ唱ゟ秀次公へ一味の者の内脇村
常陸介白江伯後守無右大膳亮毛利左近助父子日根野
下野守岩出雲丸毛忠右衛門諸代ゟ吉田徳理亮八近
為ゟ其仕方ゟ成ゟ相政宗公施薬院屋敷に申ゟ成ゟ如ゟ
上使徳善院玄以法印寺西筑後守宮井丹後守ゟ
秀吉公ゟ申ゟ者八秀次逆人に政宗一味ゟ成無相ゟ

山中（秀吉）天下を元和に奪ひ取り給ふ遠国の諸侯ふし
其恐縮にて上方の政宗公を御上へ秀次御謀反と成全
不存不之秀次公へ秀吉公御名代として高野へ被遣
し被仰付秀次公へ政宗奥州へ下向し時分秀次
御別れ申上る事を思ひ出し御陽も長く御名残の
出来ると政宗公被仰上へ私領国へ帰の時分秀次公へ
暇乞に成り如に被仰十口懸子二十貫出来と公へ申上
遂政宗へ出合に行き迷惑に成り御上へ秀吉公へ石
政宗へ連歌の発句をもとし成共伊達の家へ損朝へ
久敬武家の事に石子長無年中に政宗仕候と申若

君へ奉公申上仕政宗家中一門家老仕り大近し老中早
速取上洛以来対公儀近人仕り為石摺紙を破り一生仕る
上御上政宗へ八家来共上方と八家来の屋敷に関つて
仕る御用と成り如に京都にて何者もなく政宗家中
と石集め事を焼敬しまして出る松風流と政宗公
仕る事と石無御無に石御切のら仕へ申上
仕て家中の者共町中へ出る事を堅く停止と申仕
白戸中納言屋敷に高札を立秀吉公御名代御切
（出申）と政宗へ御奉行布施孫山左衛門板山左
水竹中真左つ右三人を御召寄上義光と人と会せ秀

吉公を殺害し日本国を二つに分政宗義光西将軍に
成たることの時機と言ふべし新貴秀吉公の勇猛
機へ出し時これを上策なり政宗義光の使人来り
成屋敷を云ふ所にて石之秀次一味のものも新の敵な
ることとて遠ざけ後政宗義光のも義光の赦免
とも言前の侍従をんこれ行出生屋敷をよし
おもて徒出所人公中に屋敷をくるの奉行成名言て
ものれと立ちの所の兵右徒者八ヶ知札場八京室町使人小
京町之は義光姫秀次公へ参もものとも義光（義
下政宗義光一国に自見御生

一文禄三年四月廿二の岩ヶ山ヶ発ヶ上京五月十五京都へ
岩田十六ヶ秀吉公へ目ん
一五月廿二ヶ政宗公ヶ息兵五千度秀次公へ奉公に名ヶ
先八遠江守秀宗のヶるる
一六月九ヶ時宗公ヶ奥方於宮城振白石ヶ参去
文録四年　乙未
一二月政宗公ヶ下四ヶ四脈出る秀次公ヶ殺十口ヶ脈子二十疎
出生ヶ八ヶ名ヶ二月廿二ヶ伊見ヶ出馬ヶ下名
一八月三ヶ秀頼公ヶ誕生

一八月朔日政宗公ニ山口出馬仕見ヘ申候ハ白石美濃原
田左馬助佐倉少輔平田五郎右衛門武蔵方名小太郎秀
次公ヘ申候ハ不審ニ存候ハ自ハ
一同月中旬ニ伝政宗一門家老衆ハ上洛仕候ハ書付ニ百
姓上下千人ヲ召連候ハ謀反ニ成候ハ政宗ハ
ハ家中ニ考ハ有ハ仕ニ成ハ
ハ考し屋敷ハ
ハ
ハ
ハ

前書之事

一対公儀政宗不義ニ成ハ先年ハ
ハ

免身上ハ
上申ハ
家老ハ
一如此申事ハ自然政宗覚悟ハ対公儀別心表ハ
ハ
と云上申上
一申ハ当代ハ
ハ
ハ
右條ハ若私曲ハ者ハ此神社上巻之起請文申ハ
今生ハ白癩黒癩ハ

永却浮ヶ不可有之者也仍ヶ前書如件

石川中務義宗

伊達藤五郎成實

文録四年八月廿四日

伊達上野政景

伊達義滝重宗

伊達彦九郎盛重

泉田安藝重之

大條尾張宗綱

柴折点了斎不休

白石若狭宗玄

石母田大膳亮頼

大内備前定綱

中島伊賀永宗

原田左馬介宗長

留守孫内蔵允信綱

遠藤孫六郎基治

片倉小十郎景綱

山岡志摩重長

湯目民部信廉

湯村右兵衛親之

民部卿法以法印

施薬院　法眼

寺西筑後守殿

岩井丹波守殿

右拾九人起請文血判を相持て其後各書子為に仕
見に住宅を拵て此之実ハ秀吉公人質に召置ての事
一九月大閤大坂の御城を召出の後に御先立の後の御仕合
御下向の時御供大名方に家康公盛家に生年歴を供大名
方十四五人召連御城を御発家康公御あの事
ハ毛利の御ハ日本中ハ御ハ唐も天竺も有
事

事ハ御ハ縦行ず方騎て世先かつてハ只義陳ばかり
ハ御ハ大閤様御接待ハ世陳ばかりも奥殿ばかり立ハ御ハ
とて仕立て筑前守殿ハ拙者共一緒参ず申
御立ハ大閤様ばかりを安心義ばかりて仕者家康公
お拵ず御ハ義ハ御ハ奉ずて御ハ実に御ハ拵ず大
閤御接待ハ人数を九一年も二年も元花拵て定て陳の
者共退屈て毛侍を入長上を仕拵て御ハ持
て引出の義ハ何ハ方年四の陳仕ハ御ハ元て拵
て引て定て陳の人退屈ハ合点て毛ハ主家ハ人数大御方て
翻破して御ハ細ハ義ハ義て毛ハ法大名ハ御ハ立実ハ